

歓迎の辞 お茶の水女子大学学長 郷通子先生

みなさま、こんにちは。ようこそお茶の水女子大学にお越しくださいました。

先ほど来賓の方から、今日初めてこの大学に足を踏み入れて下さったというお話を伺いました。この大学は今年で130周年という大変古い歴史を持っていて、国が明治8年、最高の教育を女性にさせていただくために作ってくださった古い歴史のある大学でございます。しかし、女性が学長になりましたのは、私の前の本田学長が初めてでございます。私はこの4月から本田先生の後を継いで、女性としては2人目の学長でございます、そういう意味では、女子大でありながら今まで女性がトップに居なかったというちょっと不思議な所でございます。これも、男女共同参画学協会連絡会のようなものができて、世の中の動きが男女共同参画という形に大きなうねりになって動き出してきたと言う中で、色々なところで、少しずつではありますが、女性が意思決定できる場所に沢山入るようになったのだらうと、私もその中の一人として、さきほど荒木課長からお言葉をいただきましたように、女子大学は一時生存の危機に瀕しましたがけれども、法人化という新たな時代の流れの中で個性を発揮する、小さな大学でありながらも、それなりに光るものと言う形で、がんばって行きたいと思っております。先ほどリーダーを育てるためには、女子大というのは必要だとおっしゃっていただきまして、私も全く同じ思いであります。本学におきましては、社会のいろんな分野でリーダーシップをとれる人を、総力を挙げて養成していける仕組みを新たに作りたいと思っております。

歓迎の辞としてはちょっとどうかと思いますが、本学でこんなことをやっておりますということをご紹介して、女子大なので有る意味では当然やるべきこと、しかし中々そう簡単ではないけれどやれることというのがありますので、もしかしたら本日この場にいらしている方々のそれぞれの機関で、こんなことだったらうちでもできるんじゃない？という風に思っただけのことがあるかもしれませんので、少しこの場を借りて、ご紹介させていただきたいと思っております。

女性研究者の育成ということではいくつかありますが、特に一つご紹介したいと思っておりますのは、120周年記念桜蔭会国際交流奨励賞です。10年前に桜蔭会という同窓会からのご寄付をいただいて、大学院生あるいはポスドクレベルの方に、海外の先端的な研究をしておられる方との共同研究をして貰うための奨学金という形で、最高200万円まで、1年とか長期間行っていただくための奨学金でございます、額から言いましても大学としてはかなり大きなものを差し上げているのではないかと思います。

アフガニスタンの女性教育を振興するお手伝いを、5つの女子大学、奈良女子大学と、日本女子大学、東京女子大学、津田塾大学でコンソーシアムを作りまして、第1期3年が終わって、今は第2期5年の新しい契約を結びました。アフガニスタンの女性の方々をお迎えして、付属中学で研修なども行っております。

育児支援というのはどこの大学でも最近では始められていると思っております。本学の中には保育園までございます。授乳室というのもございます。特徴としては、この4月から、大学

院生で私どもの保育園に預けた人に保育料の半額の援助を、奨学金と言う形で始めました。ほかの大学では多分まだここまでなさっていないと思います。これを学部まで広げて欲しいという声もありますが、今のところ財政上の問題で、大学院生にさせていただいています。それから、育児休業を取らない教員の方たち、つまり研究上のこととか、学生指導の関係でお子さん出産後も育児休業を取らない方には、授業、委員会などの大学の中の仕事を軽減させていただいております。具体的には非常勤講師の手当てをお付けしています。それは大学で費用負担しております。男性も女性も支援しておりますので、実際、男性の先生もこれを使っておられる方がございます。それから、非常勤職員の方の育児休業、それから介護休業もお取りしております。今のところ随分たくさんの方のことを、やれる限りのことを予算の許す中で、苦しい中ではございますけれど、支援をさせていただいています。

研究のことで2つほど。お茶の水女子大学は、21世紀COEに採択させていただいております。その一つが、「誕生から死までの人間発達科学」でございます。これは、乳幼児から老齢まで、発達心理学の立場から様々の問題を視野に入れた、特に女性の一生というもの、あるいは女性だけでなく生涯発達の追跡研究をしております。実際には幼児虐待の問題ですとかを、研究もしながらカウンセリングもやりながらと言う形で進めております。

もう一つの21世紀COEプログラムは、「ジェンダー研究のフロンティア」でございます。これは男女共同参画社会の実現に向けていろいろな問題を発信していくと同時に、アジアを中心に、世界のジェンダー教育・研究の発展に資する拠点にしたいということでございます。これから学際的に、科学や医療技術などの未開拓研究領域の開拓にも努めていきたいということで、一生懸命やっております。

次に女性教員の登用ということでございます。本学は女子大学で、女性教員の割合は他の国立大学に比べると一番多いけれども、まだまだ色々問題がございます。女性の教員の採用と言う点では、学位、業績ですとか能力が同じくらいだったら女性を優先するという取り決めがございます。

それから、ロールモデルを学生さんたちに沢山見ていただこうと、名誉博士号を設けました。これは、世界的に著名な業績を上げた女性研究者や、卓越した女性リーダーを表しようということです。第1号が緒方貞子さんで、今まで国内外6名の方を出しております。

次は、女性支援の活動の一環で、企業など社会での女性リーダーとして育ててもらおうための事業でございます。キャリア支援に関する将来構想計画などの相談もしておりますし、人権侵害に対する対応も、一生懸命やっております。実は人権の問題というのは、付属学校でも色々課題がございますので、全学を挙げて大変な努力をさせていただいております。

女性教員の割合ですが、少し古いデータで、管理職は42%、講師以上の女性は38%です。今はもう少し上がっていると思います。全国平均16%と比べていただきましたらやはり多いと思いますが、私は、ゆくゆくは50%にしたいと思っております。全教員48%ありますのは、ポストクの方と助手の方も含めるとこの数字になります。講師以上の方が50%というのを、私は目標にしたいと思っております。事務職員の方は32%で

これもできれば50%になっていただきたい。国立大学として国から支援していただいている、奈良女子大学とお茶の水女子大学という2つの女子大学が、女性を育てていくためのモデル機関として色々試させて頂いていることを、他の機関の皆様方にもお役に立てるように、がんばって行きたいと思っております。

最後に、ご紹介を兼ねましてお時間をいただきましたけれども、今日はこの機会に、大勢の方々にこの大学をご覧いただくと言う意味でも、大変貴重な機会をいただきました。こういう機会には、これからまだまだいくらでも大学を使っていただきたいと思います。場所的には、便利なところに思いますし、ちょっと奥の方に行っていただきますと、緑が多くて、都心にありますけれども少しほっとしていただけるところもございます。また色々な面でご示唆も頂きたいと思ったり、こういう場を使っていれば、喜んでお手伝いしたいと思ったり。今日はこれからまだ特別講演とか、大変大事なシンポジウムがあると思いますので、大変長くなって申し訳ございませんでした。今日はどうぞ、ごゆっくりとこの大学でお過ごしください。どうもありがとうございました。